

「向山 まつり」や『ふれあい運動会』、『ふれあい文化祭』、白川の日の一斉清掃など、地域活動がとて「ふれあいまち」と話す野間口さん。人のつながりを生かした健康まちづくりの取組として、平成25年10月から「ふれあいうオーキングクラブ」の活動もスタートしました。これからのまちづくりについて、田上会長は「いろんなふれあいの場で、地域の人たち同士がお互いに知り合い、さらに人と人のつながりが深まれば、それがきつと防犯

ふれあいの場を大切にしたいまちづくり

で、新しい住民の方が自分のま

や防災に役立つ。もともと暮らす人たちと新しく移り住んだ人たちとの融合をすすめて、もともとと住みよいまちにしたいですね」と、語ってくれました。



毎回1,000人以上の住民が参加する「ふれあい運動会」。20の町内が6ブロックに分かれ、競技を楽しむ。参加者が減ることなく、新しい住民の参加も多いのは、地域の誇りの一つ



向山校区自治協議会の田上一成会長(左)と向山校区まちづくり委員会の野間口壽子事務局長(右)

向山校区 (平成25年4月現在)
人口計: 10,740人
世帯数: 5,286世帯
町内自治会数: 20



校区の各種団体が協力して開催する夏まつり。平成25年のテーマは「向山力」だった



「防災避難訓練と健康フェスタ」。災害体験、サバイバルめし炊き体験などのほか、簡単にできる防災グッズづくりなどもあり、子どもたちも楽しく参加できる

危険箇所等が盛り込まれた「防災・交通安全マップ」。危険箇所の改善や内容の見直しなどを進めている。小学校入学時に配布される他、「防災避難訓練と健康フェスタ」で配布している

ついて知りたい」というテーマで、白川で起こった「6・26大水害」についての勉強会や防災について考える講演会、初期消火訓練と子ども向けゲームなど、すべての世代向けに企画した「防災避難訓練と健康フェスタ」が開催されました。「安全な避難のためには健康も大切な要素」と、健康づくりもテーマの一つに加えられました。翌平成21年には地域防災についての学習会(全3回のワークショップ)も開催。以後、参加者は、年々増加し、すっかり校区に定着しました。

とくに、平成24年度には、7月12日の九州北部豪雨災害を教訓に、防災避難訓練参加者に水災の体験をしてもらうなど、大雨や洪水の恐ろしさを身をもって知る企画も行いました。その成果として、現在は9つの町内と1つのマンションに自主防災クラブが結成され、着々と「安全安心のまちづくり」に向

「いざとなったらどこへ行く?」を解決するマップ

「実は」最初にフェスタが少なかったことが、課題でした。低学年の保護者には、新しく校区に移り住んできた方も多いため、どうしたら参加してもらえるかを考えました」と野間口さんは語ります。

そこで、まずは校区の避難場所や危険箇所を知ってもらい、防犯防災意識を高めてもらうと、校区の安全マップづくりを企画。自治会や子ども会の役員で実際にまちを歩き、危険箇所や避難経路を確認した上で、地図に落とし込みました。地図は、毎年小学校に初めて入学する児童の世帯に配布されています。「町内の区分けがしてあり、主要施設や商店が記載してあるの